

書籍紹介

拙劣な決断が呼び込む戦争の影
『八月の砲声』 バーバラ・W・タックマン著

1914年の欧州は、誰も「大戦」を望んでいなかった。にもかかわらず、「連年の誤解と判断ミス、硬直した軍事計画が、各国を回避不能の破局へと押しやった。バーバラ・W・タックマンの名著『八月の砲声』(1962年刊)は、第二次世界大戦の勃発過程を克明に描きながら、戦争がいかに「意図せざる結果」から生まれるかを鮮烈に示す。いま国際環境が不信と緊張を増す中、本書は歴史を越えて「現在への警告書」としての意味を「層深めている」。

開戦へと向かう「誰も止められない列車」

歴史家であるタックマンの紡ぐ叙述の特徴は、第一次世界大戦の原因を「特定の指導者の狂気」や「ある国の野望」へと単純化せず、構造的な誤算の累積として描き出した点にある。

諸国の外交官は互いを不信の目で見つめ、軍部は

自国の計画に固執し、情報に錯綜し、誤解は訂正されないまま膨らんでいく。どの国も「自衛」を主張しつつ、相手国の行動を攻勢と受け取り、結果として事態は自動的に進行する。まるでレールに乗っ

ケネディが本書から読み取った「恐怖」

1962年、米ソが核戦争寸前まで突き進んだキューバ危機の最中、アメリカのケネディ大統領は刊行されて間もない本書を読み、強い衝撃を受けた

ここに描かれるのは、過去の失策ではなく、国家間の緊張が一定水準を超

「台湾有事」の議論に重なる危うさ

本書をいま開くと、東アジアの現状と響き合う部分は少なくない。

高市首相の「台湾有事」を巡る国会答弁以降、日中関係は急速に悪化し、経済的にはもちろん、人の往来にまで支障をきたす事態となっている。台湾情勢をめぐる緊張、南西

ケネディが本書から読み取った「恐怖」

1962年、米ソが核戦争寸前まで突き進んだキューバ危機の最中、アメリカのケネディ大統領は刊行されて間もない本書を読み、強い衝撃を受けた

諸国の外交官は互いを不信の目で見つめ、軍部は



フランス東部にある第一次世界大戦で亡くなったフランスとドイツの兵士の墓地

く、慎重な外交交渉を選び取った。歴史の一冊が、世界の運命を左右した稀有な例と言える。

「台湾有事」の議論に重なる危うさ

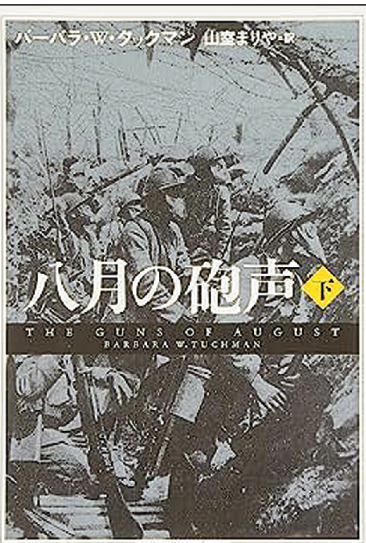
本書をいま開くと、東アジアの現状と響き合う部分は少なくない。

高市首相の「台湾有事」を巡る国会答弁以降、日中関係は急速に悪化し、経済的にはもちろん、人の往来にまで支障をきたす事態となっている。台湾情勢をめぐる緊張、南西

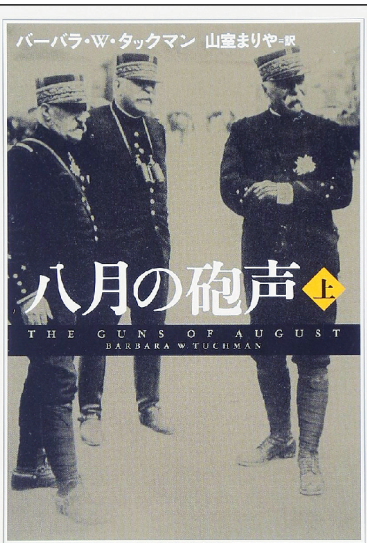
ケネディが本書から読み取った「恐怖」

1962年、米ソが核戦争寸前まで突き進んだキューバ危機の最中、アメリカのケネディ大統領は刊行されて間もない本書を読み、強い衝撃を受けた

諸国の外交官は互いを不信の目で見つめ、軍部は



八月の砲声 下



八月の砲声 上



キューバ近海でにらみ合うアメリカの哨戒機とソ連の軍用貨物船

実際、キューバ危機でも米ソ双方は互いの意図を正確に掴めず、あと一歩の断を誤れば核戦争へと発展していた可能性が高かった。

ケネディは本書から学び、軍の強硬策だけではない

「軍備こそ抑止」という常識への問い

タックマンの叙述は軍事的な戦術・作戦にも及ぶ

今、同じ構造が姿を見せつつあることに、読者は戦慄を覚えるだろう。

「八月の砲声」が半世紀以上読み継がれるのは、単なる歴史叙述を超え、戦争がどのような心理・制度・外交の積み重ねから生まれるのかを可視化したからだ。

本書は、戦争の原因を「善悪」ではなく「構造」として描いた。ここにこそ、その普遍性がある。

今日、世界の多くの地域で緊張が高まり、東アジアでもまた、対話よりも抑止が重視される空気が強まっている。こうした状況下で本書を読むことは、過去の惨劇を知るためではなく、未来の惨劇を防ぐための行為となる。

タックマンの描く1914年の夏は、遠い昔の出来事ではない。それは、いま私たちが直面している国際情勢の鏡像であり、「同じ道を繰り返すな」という静かだが強烈な警告である。

対話の勇気を持った読者の必読書

戦争は、強い意志によ

ではなく、むしろ止める勇気を欠いたときに始まる。『八月の砲声』はその事実を、歴史の実例をもつて突きつける。

緊張が高まる地域でこそ、軍備ではなく、対話・外交・信頼醸成こそが最大の安全保障となる。その当たり前の真理を忘れそうになっている現代において、本書は改めて読む価値のある一冊だ。

「望まれざる戦争」は、いまも私たちの周囲に潜んでいる。その危険を直視し、冷静な思考を取り戻すためにタックマンのこの古典は、まさに今こそ読むべき本である。

頑張れ尾上部屋
関取誕生への期待ふくらむ初場所

明けましておめでと〜ございませう

公益財団法人 日本相撲協会

尾上圭志・部屋一同



拝啓 時下ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。日頃から皆様方にはご支援ご声援をいただき

き誠に有難う御座います。昨年相撲界も新横綱新大関が誕生し、さらに勢いある若手の活躍とまた新しい波が寄せてきております。おかげさまで本場所の方も連日の満員御礼で、大変盛り上がりしております。

尾上部屋・大海 引退

日本相撲協会は昨年11月26日、大海ら4力士の引退を発表した。

大海は2001(平成13)年生まれの24歳。熊本県北郡芦北町出身。佐敷小学校1年生の頃から相撲を始め、佐敷中学

一月場所 尾上部屋力士番付



大海の髷に鉄を入れる尾上親方(左)

【幕下】	
西4枚目	☆伊波
東17枚目	☆北天海
西20枚目	☆城間
東23枚目	☆春山
西44枚目	☆穂高
西47枚目	高馬山
東20枚目	☆九鬼王
【序二段】	
☆印は番付上昇の力士	
【引退】	
大海	

言芸

・投稿歓迎

・新年に鞭だけ増えて
・新たな戦前が
・(怒りのブドウ球菌)
・(憲法窮状)

物価高や税金など負担は増えますが、実質所得は増えない現状です。「働いて働いて……」が流行語大賞とは冗談もほどほどに。本来ならめでたい「新年」ですが、むしろ「何か嫌なもの幕開け……」として不信感が滲む「新年」です。